

○この秋は畫版も出來たし水彩畫紙の四つ切も手に入つた、大荒目であるが普通畫紙使用の僕には大したものである、て僕は花廬屋製の十二色を持てサツサと足の向ふがまま、見取枠を透して輪廓をとる、下塗する、さて着色にかかると塗ても塗ても空隙がうまらぬ、この日は晝頃までにやうやく半分、次の日漸く形付けてしまつたがなか／＼調和もなにも顧るの餘裕がなかつた、只一生懸命白紙を塗り消さうとあせつたのである、蓋しこれが四つ切の初寫生、

○繪具紙、一向僕の思ふやうにならぬ、その上技術ときては臺なしだそれでも時々畫版を片手にそこはかとなく出かけては失敗する、しかし失敗はしても相應に愉快を感じてゐる、余にとつては二つ三つしかない慰藉のうちの 하나だから、

○太陽が逶迤たる西山に没して馬引きたる樵夫が夕餉の烟を縫ふて歸る頃には空は何とも云はれぬ程澄んだユーヅ色に匂てゐる、その時には雲もばら色に見へる、活々した大きな星が一つ見えそめる頃には雲は淡紫の衣にぬぎかへる

水彩畫と線

晩 雨

水彩畫に直線(幾何學上の直線に非ず)は禁物である。

これは自分の考に過ぎぬ。

曾て或建築物(奈良南圓堂)を寫生した時に全く失敗の作と可成に出來たのが二枚出來た。後者は前者の非を悟つて再び描い

たのである。其悟つた失敗の原因が即ち直線を描いたのにある。建築の美は曲線美と直線美とが甘く調和して居るのにある、寧ろ時としては壯大なる直線美によつて人を威壓することもある。故に建築物に直線美は是非必要である併この直線美は畫面に直線を描いて其感じを出すことは不得策だと思ふ。

自分が失敗したのは全く茲にある。直線美を現はさんが爲に丁寧直線を描いたのにある柱や額や陰陽の境界など皆直線を入れたのである其結果は非常に見悪いものとなつた。次に其非を悟つて直線を描かず陰陽の關係等で直線の感じを現はして見たが割合に甘くいつた。

其後船樹木等にためして見たのにどうしても水彩畫では筆をもつて直線を描くことは禁物だと思ふ。(直線の多いのは失敗作なる故)直線を描かずに直線の感じを出すのが必要と思ふ。以上愚感に過ぎず。

日本水彩畫會新會友

大阪府三島郡高槻尋常小學校内	松村實正
大阪府東成郡天王寺村柳原、山口方	寺内萬次郎
長野縣飯山町	森本香谷
埼玉縣北足立郡桶川町	武村徳松
東京府下大井町西光寺	芳賀雲鷄